



松浦市に完成したホールを「ゆめホール」と命名したのはわたしではない。わたしには恥ずかしくてこんな気障^{きざう}つたらしい命名はできない。ただ、「ゆめホール」はぴったりの命名ではないか。それほどに夢が詰まったホールである。松浦を訪れる文化人や演劇関係者もその出来の素晴らしさには目を見張るらしい。

2007(平成19)年に松浦市の青島から講演依頼があったことはすでに書いた。そこでわたしは民話ミュージカルを提案したのである。それが「長者と河太郎」である。その企画は継続して2008年には今福小学校の「丹後の人柱」、これには

真と、黒曜石の記念写真はいまでも我が家に飾ってある。そして、調川小学校の「浮立の里」。あの浮立の調べは忘れられない。上志佐小学校は「笛吹童子」であった。子どもの頃に見た東映映画「笛吹童子」と上志佐の伝説をだぶらせた。志佐小学校は、もちろん「徐福と不老山」。児童

みには各校の先生方が、セットとなるそれぞれの土地の遠景を書き作業をやってくれている。その遠景がゆめホールに飾られた時には、やはり感動的である。子どもたちも高校を卒業すると松浦を離れる人もいるだろう。松浦市の成人式はゆめホールだそうである。その時に「こ

で星鹿城山の「石童丸伝説」がクローズアップされれば、こんな嬉しいことはない。いまの松浦市長は友広郁洋氏である。わたしとは二つ違いの幼なじみである。友広市長は市役所でわたしの叔父、勝山祝賀二郎の部下であったといっていた。祝賀二郎叔父はなにかの祝賀の日に生まれたのかもしれない。叔父についてはいづれ語る日がある。

民話音楽劇を継続

今福のお寺のご住職も出演なきれた。2009年は養源小学校の「福島みつつの物語」。養源小学校と福島小学校は統廃合されて福島養源小学校となったらしい。養源の名は残った。

たちの群舞も忘れられない。御厨小学校は「むらさき色の雨」。観客はだれもが泣いていた。青島は間に合わなかったが、今福からは「ゆめホール」で民話ミュージカルを上演すること

ここでミュージカルをやったよね。「あの怖い自分勝手な先生はどうしたらすつとやろか」「入院したらすつとやろか」「いや、死なしたらすつとやろか」といった会話をしてもうとすれば幸いである。

友広市長は「年に1回はあなたの作品を松浦市でやりますけん」と口約束してくれた。いままもこの口約束は守られている。今年は「曇子の乱」君死にたもうことなかれ」を上演する。人は、なによりも守らなければいけないのが口約束である。ただし、男と女の口約束は

望む対馬小太郎の墓で撮った写真

「元寇と対馬小太郎」。対馬を照明、スタップも東京からわたしのチームが来てくれる。夏休

と子の哀れな伝説である。これ

わからないが。(松浦市出身)